

再会ご奉仕ックス  
収録台本

キャラクター：サラ

ファイル：p01

|    |  |
|----|--|
|    | ■パート１：お風呂  |
|    | SE 激しい雨・風 ループ  |
|    | SE 玄関を乱暴に開ける音  |
|    | SE 駆け込む足音  |
|    | SE 扉閉める音   |
|    | SE 雨・風ループ停止<br>(駆け足で帰ってきたため、呼吸を整える)  |
| サラ | sara_p01_001<br>「ふう〜……もー、びっしやびしやになっちゃった。<br>あははー、ひどいかっこー」                  |
| サラ | sara_p01_002<br>「急に降り出すんだもん……やになっちゃうね」                                     |
| サラ | sara_p01_003<br>「あーあ。せっかく、久しぶりに会ったから、いっ<br>ちばん綺麗なサラを、お兄ちゃんに見せたかった<br>なー」   |
| サラ | sara_p01_004<br>「んでんでっ、お兄ちゃんとー、バス停からの帰り道<br>をー、一緒にのんびり歩きたかったのにー……」         |
| サラ | sara_p01_005<br>「ねね、お兄ちゃん、憶えてる？ あっちに行っ<br>ちやったあの日のこと。サラが、お見送りした時の<br>こと……」 |
| サラ | sara_p01_006<br>「サラね、お兄ちゃんの前で泣きなくなかったから、<br>頑張って我慢したんだよ？」                  |
| サラ | sara_p01_007<br>「でもあの後、やっぱり泣いちゃった……」                                       |

|    |   |
|----|---|
| サラ | sara_p01_008<br>「だって、帰り道ひとりで、寂しかったんだもん…」                      |
| サラ | sara_p01_009<br>「サラ、もう1人なんだって思ったら……くしゅん…!」                    |
| サラ | sara_p01_010<br>「(鼻をすする音) うー、ごめん、お兄ちゃん。えへへ、ぬれたままじゃ風邪引いちゃうね……」 |
| サラ | sara_p01_011<br>「うんっ。じゃあさ、一緒にお風呂入ろ？ ほら、昔、よく一緒に入ったよね？」         |
| サラ | sara_p01_012<br>「え？ あれはサラがもっと、ちっちゃかったから？ えへへ、じゃあ、だいじょぶ」       |
| サラ | sara_p01_013<br>「だって、サラ、今もちっちゃいもーん♪」                          |
| サラ | sara_p01_014<br>「(耳打ちする) ……それにね、今、おうちにだーれもないんだ」               |
| サラ | sara_p01_015<br>「ぼやぼやしてたら、誰か帰ってきちゃうよ……?」                      |
| サラ | sara_p01_016<br>「ぶふっ、お風呂一緒に入ってくれる？ ありがとう！ お兄ちゃん、だーい好き♪」       |
|    | 風呂場へ移動  |
|    | 脱衣の衣擦れの音  |

サラ「えへへ、いいお湯♪ さ、お兄ちゃん、そこに座って？ お背中ながしてあげる！」

サラsara\_p01\_018「ん？ どーしたの？ 一人で入りなさい、って……一緒に入りたくないの？」

サラsara\_p01\_019「向こうの街に行ってて、サラのこと……嫌いに、なっちゃった……？」

サラsara\_p01\_020「あははっ！ 慌てちゃって、おもしろーい。じょーだんだよー。……でも、一人は寂しいな♪」

サラsara\_p01\_021「せっかくお兄ちゃんと、また会えたんだもん……サラ、もっとお兄ちゃんと一緒にいたいな？」

サラsara\_p01\_022「それに……濡れたままじーっと待ってたりしたら、ほんとに風邪引いちゃうよ？」

サラsara\_p01\_023「だから。ね？ 一緒に入ろうよお」

サラsara\_p01\_024「ふふ、じゃあ、まずはお湯でざばーってするね……よいしょ」

サラsara\_p01\_025「どーお？ 熱くない？ そう、よかったあ♪」

サラsara\_p01\_026「じゃ、次はスポンジでゴシゴシするね」

サラsara\_p01\_027「んっしょっ、よいしょっ……」ゴシ、ゴシ♪

サラ sara\_p01\_028 「んー、おっきな背中ー。えへへ、かゆいところ、ありませんかー？」

サラ sara\_p01\_029 「よいしょ、よいしょ……あはは、お兄ちゃんの背中、遅しー」

サラ sara\_p01\_030 「サラね、この背中をずーっと追っかけてたんだよ」

サラ sara\_p01\_031 「だから、お兄ちゃんがなくなっちゃったとき、すごく寂しかったあ……」

サラ sara\_p01\_032 「さて、と。綺麗になったかな？　じゃあ、またお湯でザバーってするね……よいしょっとおー」

サラ sara\_p01\_033 「ほーら、綺麗になった♪　じゃあ今度は前ね！　えっ？　前はいい？　どうして？　ほらほら、遠慮しなーい」

サラ sara\_p01\_034 「ほーらあ！　お兄ちゃん……手で隠さない！」

サラ sara\_p01\_035 「お顔も！　なーんでサラのほう見ないよーにしてるのー？」

サラ sara\_p01\_036 「え？　サラの裸が見えちゃうから？　んふふー、そっかあー」

サラ sara\_p01\_037 「えへへ、いーよ、サラの裸、見ても。ちょーっと恥ずかしいけど」

サラ sara\_p01\_038  
「でも、お兄ちゃんになら、見られても、いいよ…  
…」

サラ sara\_p01\_039  
「んもー、こっちむいてってばー。おんなのこが、  
こーんなに頑張ってるんだよー？」

サラ sara\_p01\_040  
「そ・れ・にー、だいじょぶだよー？ 隠さなくて  
も、ちゃーんと知ってるんだから」

サラ sara\_p01\_041  
「（耳打ちする）……おちんちん、ビンビン、なんで  
しょ？」

サラ sara\_p01\_042  
「あははっ、ビックリすぎー。ほら、おててどけ  
て。うんっ、良い子良い子♪」

サラ sara\_p01\_043  
「お兄ちゃんのおっきいおちんちん、キレイキレイ、  
しょうね♪」

サラ sara\_p01\_044  
「えへへ、観念した？ よいしょっ。はあ……すー  
い、おっきーね」

サラ sara\_p01\_045  
「むかし一緒に入ったときは、こんなじゃなかったの  
に、ふしぎー」

サラ sara\_p01\_046  
「こーふんすると、こうなるの、ぼっき、っていうん  
だよね？」

サラ sara\_p01\_047  
「（小声で）サラでこーふんしたんだー。えへへ、嬉  
しいな……」

sara\_p01\_048  
「ほっきしたらー、ここを、こうやって……シコ、シコ、すると、きもーちよく、なっちゃうんだよね？ ふふふ」

sara\_p01\_049  
「え？ 触っちゃダメ？ ふふっ、触らないとお、洗えないよ……？ サラに、まかせて」

sara\_p01\_050  
「よいしょっ、よいしょ。ふふ、セッケンでヌルヌルで、シコ、シコ……、シコシコ……」

sara\_p01\_051  
「どう？ サラのちっちゃいお手手でシコシコするの、自分でするより、ずーっといいでしょ？」

sara\_p01\_052  
「ん？ そんなに触れたらヤバイ？ 強かった？ お兄ちゃん、優しく触られる方が好きなんだー？」

sara\_p01\_053  
「ふふ、じゃあ、こーんな感じで、にゆる、にゆる……」

sara\_p01\_054  
「あんまりキュッて握らないよーに、やわーらかく、やさーしく。てーねいに、にゆる、にゆる……」

sara\_p01\_055  
「んー、お兄ちゃん、気持ちよさそー。ほら、先っちよ、ぶくぶく膨らんでる……」

sara\_p01\_056  
「え？ キトー？ うん、知ってるよ。亀さんの頭って書くんだよね？ スベスベしてて、かわいいー」

sara\_p01\_057  
「キートさんも、しゅべしゅべ、にゆるにゆる、しこしこ……。しゅべしゅべ、にゆるにゆる、シコシコ……」

sara\_p01\_058  
「ん、ふう……ふう、もうきれいになったかな？ 一度お湯で流しちゃおっか」

sara\_p01\_059  
「えーい、ざっぱーんー♪ おー、ピツカピカになったね。えへへー」

sara\_p01\_060  
「あれあれー？ さっきよりおっきーくなってるね、つんつんっ」

sara\_p01\_061  
「ほらほら、見てえ……すじがプクーって、膨らんで。かっこいいー、つんっ」

sara\_p01\_062  
「おちんちんって、すごいね。カチカチで、ヒクヒクしてて……んっ、もっとナデナデしたくなっちゃう」

sara\_p01\_063  
「ジコ、シコ……はあ、おちんちん、あっつい……」

sara\_p01\_064  
「ジコジコ、シコシコ、サラのお手手、きもちいい？」

sara\_p01\_065  
「え？ おちんちんって言っちゃダメ？ どーして？ いいじゃない。お・ち・ん・ち・ん」



サラ 「あっ♪ 今ピクンってした。 ひょっとして、サラ  
が言ったから、こーぶんしてるの？」

サラ sara\_p01\_067  
「ふうん。 じゃーあ、試してみよっか」

サラ sara\_p01\_068  
「サラ、お兄ちゃんのシコシコしたまま言うから、ビ  
クビクしたらすぐ分かるんだから。 ふふ、それ  
じゃ、言うよ……」

サラ sara\_p01\_069  
「おちんちん、ちんちん、ちんこ……おちんぽ……あ  
はっ♪ 今、ピクンッて動いたよ♪」

サラ sara\_p01\_070  
「へえ、おちんぽって言い方が好きなんだ。 ふー  
ん」

サラ sara\_p01\_071  
「……ちんぽ、ちんぽ、おちんぽ……」

サラ sara\_p01\_072  
「（耳打ち）お・ち・ん・ぽ……」

サラ sara\_p01\_073  
「きゃん！ すーい！ 今、サラの手の中で、踊っ  
てるみたいにビクビクってた……」

サラ sara\_p01\_074  
「ふわー、今の『イクッ』てやつ？ ちがう？」

サラ sara\_p01\_075  
「ふえ？ どうしてそんなこと知ってるのか？ えへ  
へー」

サラ sara\_p01\_076  
「……実はね、サラ、お兄ちゃんの持ってた、えっちなマンガで、いーっぱいおべんきよしたんだー」

サラ sara\_p01\_077  
「だって、お部屋にたーくさん置きっぱなしにしてあったよ？」

サラ sara\_p01\_078  
「あはは、そんなに慌てないで。だいじょぶ、誰にもないしよだから。サラとおにーちゃんとのヒ・ミ・ツ」

サラ sara\_p01\_079  
「マンガだと、こうやって、シコシコしたら、白いおしっこがびゅーって出て、イクーって、言ってたよ?」

サラ sara\_p01\_080  
「ふふ、ちんぽミルクって言うんだよね？」

サラ sara\_p01\_081  
「えへへ、ほんとほ、せーえき、でしょ？ でも、サラは、ちんぽミルクって言い方の方が、かわいくって好きかなー」

サラ sara\_p01\_082  
「お兄ちゃんほ？ 精液の方がいい？ それともせーし？ こだねじる？ ドロドロはくたくザーメンの方がいいのかなー？」

サラ sara\_p01\_083  
「うふふっ、さっきから、おちんぽ、ビクンビクンしてる……」

サラ sara\_p01\_084  
「ねえねえ、気持ちいいの？ それとも、サラに興奮してるの?」

サラ  
sara\_p01\_085  
「してるんだよね？　だってさっきからー、目をそらしてるふりしてー」

サラ  
sara\_p01\_086  
「チラチラってサラのはだか、見てるもんね」

サラ  
sara\_p01\_087  
「もー、いいよって言ってるのに。ね、ほら、たくさん見て……」

サラ  
sara\_p01\_088  
「どう？　サラのからだ。えっ？　キレイ？　えへへ、ありがとっ♪」

サラ  
sara\_p01\_089  
「お礼にい、もーっと気持ちいいこと、してあげよーか？」

サラ  
sara\_p01\_090  
「ん？　ふふふ、例えばー。サラの、おクチで、おちんぽを……しちゃう、とか？」

サラ  
sara\_p01\_091  
「あゝ！？　お兄ちゃん、今、すごい興奮したでしょ？　おちんぽ、ビクビクッてした」

サラ  
sara\_p01\_092  
「うふふ、正直なんだからあ……♪」

サラ  
sara\_p01\_093  
「サラのちーちゃんなおクチで、お兄ちゃんの爆発寸前のガチガチおちんぽを、はむンッ……て」

サラ  
sara\_p01\_094  
「そのまましゃぶりついて、根本までくわえこんで、ンググってなるのを我慢してー……」

サラ

sara\_p01\_095  
「そうすると、嬉しいんだよね？」

サラ

sara\_p01\_096  
「ふふ、そのままパツパツに膨らんだおちんぽを、舌でレロレロして……」

サラ

sara\_p01\_097  
「中に溢れた涎をとろおり、ねっとり絡みつかせて……」

サラ

sara\_p01\_098  
「きゃんっ、おちんぽ、ビクビクしてる……あはは」

サラ

sara\_p01\_099  
「どーしたの？ サラの言葉に、またこーぶんしちゃった……？」

サラ

sara\_p01\_100  
「ね、ホントにしちゃおつか……？ ふふふ、サラならしいよ……？」

サラ

sara\_p01\_101  
「勉強したもん……お兄ちゃんに喜んでもらおって」

サラ

sara\_p01\_102  
「（耳打ち）今なら……誰にもわかんないよ？」

サラ

sara\_p01\_103  
「サラと、お兄ちゃんとの、大事な大事な内緒の……  
……うふふ……」

サラ

sara\_p01\_104  
「どう？ お兄ちゃん」

サラ

sara\_p01\_105  
「サラのおクチで、じゅぽじゅぽ、れろれろ、して欲しい？」

サラ  
sara\_p01\_106  
「うんっ！ うふふ、サラ、アイスでしか練習したこ  
とないけど、頑張るね♪」

サラ  
sara\_p01\_107  
「じょーずに出来なかったら、ごめんね？ えへへ…  
…じゃあ、するね…はむんっ」

以下ちゅは音なので、口に咥えてる体で発音をお願いします。

サラ  
sara\_p01\_108  
「んちゅ、ちゅ、んちゅう……ふう、まずは、先っ  
ちよにチューするところから、だよね」

サラ  
sara\_p01\_109  
「ひちゃ、んちゅ、ちゅぬ、んちゅう……」

サラ  
sara\_p01\_110  
「ちゅ、んちゅ、れろ、れろれろ……んん、ふう、変  
な味……ふうん、おちんぽってこんな味なんだね」

サラ  
sara\_p01\_111  
「え？ 嫌な味ってわけじゃないよ。れろ、ねろねろ  
……ちよっと想像と違っただけ、じゅる、ちゅ」

サラ  
sara\_p01\_112  
「マンガで、『美味しい』ってあったからどんな味が  
なーって……ねるん、んちゅ、ぴちゃん……」

サラ  
sara\_p01\_113  
「サラ、この味、ちよっと好きかも……ねるん、ぴ  
ちゃ」

サラ  
sara\_p01\_114  
「んちゅねる……だって、お兄ちゃんの味と匂いがす  
るんだもん……」

サラ 「ふふ、洗ったのに……こんなに匂いがする……ペ  
ろ、れろれろ……」

サラ sara\_p01\_116  
「んん、はあ……ああ、舌がうぐいちやうよお……  
ちゅぶ、じゅぶ」

サラ sara\_p01\_117  
「んふふ、お兄ちゃん嬉しそう……顔がにこってして  
るよ。はむ、ねろ……」

サラ sara\_p01\_118  
「えへへ……れろ、れろ……その顔、もっと嬉しくし  
てあげたくなっちゃう……じゅるる」

サラ sara\_p01\_119  
「んはああむ……んちゅ、ちゅぶ、じゅる、れろれろ  
……ちゅぽん……はあ、はあ……ああ、すーい……  
…」

サラ sara\_p01\_120  
「お兄ちゃんの匂い、おクチと鼻の中いっぱいになっ  
ちやったあ……はあ、ふう……いい匂い……すき……  
…」

サラ sara\_p01\_121  
「んあむ、もぐ、もぐもぐ、れろ、んちゅちゅる、れ  
ろぬるる、ちゅぽん」

サラ sara\_p01\_122  
「（口離す）……あはああ……美味しい……」

サラ sara\_p01\_123  
「んん……んあむ、もぐもぐ、むちゅ、ぬるる、  
れろんちゅ……」

サラ「（以降しゃぶりつきながら喋る）おちんぽの味、お  
クチの中いっぱいになってる……」

サラsara\_p01\_125「くちゅ、ぬりゅん、れろれろ、ちゆるねろん……」

サラsara\_p01\_126「はあ、ああん、先っちゃで、喉が詰まっちゃうよお  
……ねちゅ、ちゆるる、ちゅぼお……」

サラsara\_p01\_127「ん、んぐっ、ぐぼっ、じゅぶう……んぐう、げ  
ほっ、うぐっ……」

サラsara\_p01\_128「（口を離す）ふう、ごめんなさい、ちよっと奥まで  
お仕込み過ぎちゃった……」

サラsara\_p01\_129「はあ、ふう……あはは、見て見てえ、おちんぽ、涎  
でドロドロ……ふふ、すっごくエッチい……」

サラsara\_p01\_130「ねえねえ、続きしていい？ サラ、早くお兄ちゃん  
をイカせたくなっちゃった……んん、はあーむ」

サラsara\_p01\_131「（以降、しゃぶりつきながら喋る）んちゅ、ちゅ  
ぽ、ちゅぶじゅる、れろねる、んちゅ」

サラsara\_p01\_132「ちゆるじゅるるう……んふふ、こうして吸い付く  
と、気持ちいいんでしょ？」

サラsara\_p01\_133「じゅる、れるぬるる、くちゅ、ねろ、んちゅううう  
……」

サラ sara\_p01\_134 「ん、なんだかしょっぱい……れるねろ、にゆるる、ちゅちゅう……」

サラ sara\_p01\_135 「ずる、れろ、れろん……んはあ、れろれろ、おちんぽ、ヒクヒクしてる……」

サラ sara\_p01\_136 「これ、ひょっとして……ちゅば、ねるる、くちゅう……」

サラ sara\_p01\_137 「ちゅぶ、じゅぼぐじゅるる……はあ、ん、いいよ……お兄ちゃん……じゅっ、ずちゅっ」

サラ sara\_p01\_138 「れろれろ、じゅぶっ、このまま出してえ……ぴちゃ、れるる、ねろん……」

サラ sara\_p01\_139 「じゅぼっ、じゅぼぼっ、じゅるる、出るんでしょ？ じゅちゅっ、れるれろ、じゅぽちゅ、いいよ、出してっ」

サラ sara\_p01\_140 「お口の中、おちんぽミルクでいっぱいにしてえ！ ちゅ、くちゅる、ずずじゅるるううう……」

射精

サラ sara\_p01\_141 「んぶっ！？ んんう！？ んんっ！？ んんんううゝゝゝゝゝゝゝ……」

サラ sara\_p01\_142 「……ん、んう……、んんっ、ん……」



サラ sara\_p01\_143  
「（ゴクン）……はあ、ひやうう、びっくり、したあ……はあ、んん……」

サラ sara\_p01\_144  
「ひゃん！？ まだ出てる……おクチの中に、にゆるにゆる溢れてくる……」

サラ sara\_p01\_145  
「はあ、んん、れろれろ、んちゅ、れろん……」

サラ sara\_p01\_146  
「んはあむ、ねろ、んちゅ……れろれろ、もっつ、むぐう……んっ（ゴクン）」

サラ sara\_p01\_147  
「……ふへえ……ちゅぽん……（以降、肉棒から口を離して喋る）」

サラ sara\_p01\_148  
「はあ……はあ……ほんとに、マンガみたいに、ビュッビュッ……ッて出るんだね。ビックリしちゃった♪」

サラ sara\_p01\_149  
「ふう……変な味い……でも、んふふ、これが、お兄ちゃんの味なんだね……それに、この匂い……」

サラ sara\_p01\_150  
「ふう……身体がホカホカしてきちゃった……。そろそろ出よっか。その前に軽くシャワー浴びなきゃ……」

サラ sara\_p01\_151  
「ほら、おクチに入り切らなかったおちんぽミルクでードロドロになっちゃった♪」

サラ sara\_p01\_152  
「……えへへ、どう？ サラ、えっち？」

|    |  |
|----|--|
| サラ | <div>sara_p01_153</div> <p>「ふふ、ありがと……ふう、少し疲れちゃった……」</p>            |
| サラ | <div>sara_p01_154</div> <p>「……ねえ、お兄ちゃん、麦茶でも飲んで、座敷でゆっくりゴロゴロしよー」</p> |
|    | <div>p02&lt;</div>   |



再会ご奉仕ックス  
収録台本

キャラクター：サラ

ファイル：p02

|    |  |
|----|--|
|    | ■パート2…初めて  |
|    | 爽やかな風が吹き抜ける音   |
|    | SE グラスの中で氷がぶつかる音   |
| サラ | sara_p02_001<br>「はい、お兄ちゃん、麦茶。キンキンに冷えてるよー」                  |
| サラ | sara_p02_002<br>「じゃ、いただきまーす……ン……ンッ、ンク………<br>…ぶはー。えへへ、おいしー」 |
| サラ | sara_p02_003<br>「んー……ふう、いい風が入ってくる……。さっきの雨、すぐやんじやったね」       |
| サラ | sara_p02_004<br>「さあ……一緒にゴロゴロしよ♪ ほら、お布団なら、もう敷いてあるから」        |
| サラ | sara_p02_005<br>「……ほーら、ここでネンネしよお」                          |
| サラ | sara_p02_006<br>「ふふ、ありがと、お兄ちゃん……んふふ、これでやっと落ち着いてお話が出来るね……」  |
| サラ | sara_p02_007<br>「サラ、お兄ちゃんのこと、ずーっと待ってたんだよ？ ずーっと……」          |
| サラ | sara_p02_008<br>「だから、今日は、その分、ずーっと一緒にいようねっ」                 |
| サラ | sara_p02_009<br>「じゃあ、おにいちゃんは、天井向いて、ゴロンっ<br>て、してー……」        |

サラ sara\_p02\_010  
「サラはー、おにちゃんの一、おとなりさん♪」

サラ sara\_p02\_011  
「ふぁ、お兄ちゃんのうで、やっぱり男の人って感じ……」

サラ sara\_p02\_012  
「ね、腕にぎゅーって、だっこしていい？」

サラ sara\_p02\_013  
「わあい♪ じゃあしつれいして。ぎゅるるるるるるるるるる……」

サラ sara\_p02\_014  
「遅しく、太くて……んん、ふう、はう」

サラ sara\_p02\_015  
「お兄ちゃんのあったかさが、いーっぱいからだにうつってくる……ん、はぁ……」

サラ sara\_p02\_016  
「え？ 胸が当たってる？ ふふ、サラのおっぱい、きもちいい？」

サラ sara\_p02\_017  
「サラはね、きもちいーよ、胸でお兄ちゃんの体温を感じると、落ち着くの……」

サラ sara\_p02\_018  
「ん……んんぁ、はぁ、あふう……んん……ふふ、こめんね、モゾモゾしちゃって……」

サラ sara\_p02\_019  
「なんだか、あ、あふう……はぁ、ああん……先っちょが擦れて、気持ちいい……」

サラ sara\_p02\_020  
「お兄ちゃんの、うでにー、ぶって押し付けて、く  
にくにって動かすと、ふあっ、いいの……」

サラ sara\_p02\_021  
「うん、乳首、ビンビンだよ……お兄ちゃんの側にい  
るから、かな？」

サラ sara\_p02\_022  
「ほら、こんなに固くなって、服の下から持ち上がっ  
てる……」

サラ sara\_p02\_023  
「わかる？ ほら、ツンツン……うふふ、先っちょで  
腕をツンツンしてるよ……」

サラ sara\_p02\_024  
「はあ、ん、んあ、ああん……コリコリって擦れ  
て、きもちー」

サラ sara\_p02\_025  
「んはあ、お兄ちゃんの手のひらも、サラの太ももで  
ぎゅーってしていい……？」

サラ sara\_p02\_026  
「どうしてって、そんなの、んあ、はあ……決まっ  
てる、じゃない……はあ、あふう……」

サラ sara\_p02\_027  
「お兄ちゃんの手、おまんこに、擦れて……んっ、ん  
くう、気持ち、いいから、だよお……はあ、あ  
はああ……」

サラ sara\_p02\_028  
「えっ うふふ……おにいちちゃんので、ピクってした  
ね……うん、そう」

サラ sara\_p02\_029  
「（以下耳打ち）お・ま・ん・こ……おまんこって  
言ったんだよ……」

サラ sara\_p02\_030  
「ふふ。お風呂で見たでしょ？ サラのお股のところ  
……」

サラ sara\_p02\_031  
「ツルツルのおへその下の、ちっちゃーい割れ目」

サラ sara\_p02\_032  
「アソコにね、なにか硬いもの、こーやって、こすり  
つけると……」

サラ sara\_p02\_033  
「ん、ん、すっく、気持ちいんだよお……」

サラ sara\_p02\_034  
「ん、だから……このまま、お兄ちゃんの硬くて、太  
くて、遅い腕……」

サラ sara\_p02\_035  
「サラにちょっとだけ、ぎゅってさせて？」

サラ sara\_p02\_036  
「ん……あっ、あっ、ああ……お兄ちゃんの体温が、  
おまんこに、染み込んでくる……はあ、ふう……」

サラ sara\_p02\_037  
「ん……クンクン……んふふ、お風呂上がりなの  
に、お兄ちゃんの匂いがする……」

サラ sara\_p02\_038  
「は……おまんこが、溶けちゃいそう……」

サラ sara\_p02\_039  
「え？ 濡れてる……？ ほんとだ、パンツ、ぐっ  
しょぐしょになっちゃったあ」

サラ sara\_p02\_040  
「えへへ、サラね、お兄ちゃんのことを考えてると、いつもおまんこ濡れちゃうの……」

サラ sara\_p02\_041  
「（耳打ち）割れ目の中の、気持ちいいところ……クリトリスを触っていると、もう……すごいことになっちゃうんだよ……お兄ちゃん」

サラ sara\_p02\_042  
「ふふ、おにいちやんのえっち。下着の上から、クリトリス、指で探してる……。ふああ」

サラ sara\_p02\_043  
「きゃんっ、もうっ、触っちゃ駄目だってばあ……あっ、あゆ、駄目……おパンツ、ずらさないで……」

サラ sara\_p02\_044  
「え？ 割れ目が今、どうなってるか説明してくれ、だって？」

サラ sara\_p02\_045  
「うん、お兄ちゃんのエッチな指が、サラの小さい割れ目を……割れ目を……」

サラ sara\_p02\_046  
「んん、はあん……わ、割れ目をこじ開けて……く、クリトリスを……あっ、くう……」

サラ sara\_p02\_047  
「はあ、きやううん……」しょしょって、ふくう、撫でてるう……」

サラ sara\_p02\_048  
「そ、その触り方、すごく、いい……あああ、二本の指が、尖った敏感なところを、ふわっとやさしく撫でてる……」



sara\_p02\_049  
「お兄ちゃんの、エッチ……はあ、んん、それ、サラが一番気持ちいい、触り方……」

sara\_p02\_050  
「あ、ああ、駄目……自分ですのと、全然、ち、違うよお……はあ、ふう……」

sara\_p02\_051  
「んんっ、んう、お兄ちゃん、指、こんどはちゅこちゅこって、お汁を塗り広げるみたいにい……」

sara\_p02\_052  
「あっ、ああっ、おまんこ、ほぐされてる、くぱあっで、ひらいちゃう……ひやうんっ、あふう……」

sara\_p02\_053  
「ね、お兄ちゃん、ちゅーしてえ……はあ、はあ……ん、チュ、チュウ……れる、ねろねろ……はあ、あはあ……」

sara\_p02\_054  
「ちゅっ、れろれろっ、ちゆるっ、ちゅー、ちゅっちゅっ、ぷはっ」

sara\_p02\_055  
「ああん、オトナのキス、えっちだよお……ふああ、えっちだからあ」

sara\_p02\_056  
「（耳打ち）おまんこ、もっと濡れちゃった……えへへ……」

sara\_p02\_057  
「ちゅ、んちゅ、ねろねろ……はあ、はあ……ねえ、お兄ちゃん、サラ……もっと大人のエッチがしたい……」

サラ sara\_p02\_058 「サラのおまんこに、おちんぽ……挿れちゃおうよお……ね……？」

サラ sara\_p02\_059 「……うん、サラならいいよ。だって、ずーっとお兄ちゃんとエッチすること考えてたんだもん」

サラ sara\_p02\_060 「お兄ちゃんのエッチなマンガ読んで……おまんこいじりして、アイスでおクチの練習して……」

サラ sara\_p02\_061 「ずーっと、お兄ちゃんを待ってたんだよ？」

サラ sara\_p02\_062 「……うんっ、してっ、えっちして、お兄ちゃん……すき、だいすき……」

サラ sara\_p02\_063 「よい、しょ……ふあっ？ お兄ちゃん、そんなに足広げられたら、サラこーfunしちゃう……」

サラ sara\_p02\_064 「これ、せーじょーい？ だよね？ お兄ちゃんのお顔見えて、安心する」

サラ sara\_p02\_065 「おちんぽも、よく見えるよ……こんなに大きいのが、サラの中に……。本当に入るのかなあ？」

サラ sara\_p02\_066 「えへへ、やっぱりちよっと、怖い……ぎゅってして？ お兄ちゃん」

サラ sara\_p02\_067 「お兄ちゃんにぎゅってされて、幸せ……ドキドキして来ちゃった……怖いのも、どっかいいっちゃった」

サラsara\_p02\_068  
「それに、嬉しい……とうとう、この日が来たんだなーって……」

サラsara\_p02\_069  
「ふああ、ぎゅってされたら、あつついおちんぽが、サラの太ももにあたって、どんどん濡れてきちゃった……」

サラsara\_p02\_070  
「ふえ？ おまんこを指で開いて、腰を少し突き出すの……」う？」

サラsara\_p02\_071  
「ああん、恥ずかしいよお……でも、こうした方が、きつと痛くないんだよね？」

サラsara\_p02\_072  
「うん、いいよ、お兄ちゃん……おまんこ、サラの両手で、くぱあって、したよ？」

サラsara\_p02\_073  
「そのガチガチで、パンパンの、エッチなおちんぽ、サラのちっちゃいキツキツおまんこに、いれてえ……」

サラsara\_p02\_074  
「んっ……、ふうっ、くううっ……！ あううう、い、いったあ……、お、にい、ちゃ……、んんっ……」

サラsara\_p02\_075  
「だ、いじよぶ……止めないでっ、こ、このまま、いれ、……んっ、くう、ああああん！」

サラsara\_p02\_076  
「はあ……はあ……あはあ……一番、太いところが、割れ目の中に入っちゃった……」

サラ 「うん、だいじよぶ……。でも、ちょっと苦しい、かも」

サラ sara\_p02\_078 「すこし、きゅーけー、したいなー。ふうっ、ふうん  
んっ、はあっ……」

サラ sara\_p02\_079 「お兄ちゃんの、入ってるの、わかるよ……。あつく  
て、かたくて、頼もしくて」

サラ sara\_p02\_080 「はいってる、かたち、わかる……。ふああ、想像し  
たら、おまんこの、奥が、あつくなくて、はあ、ん  
ふうん」

サラ sara\_p02\_081 「ふえ？ お兄ちゃん？ んっ、（ディープキス）  
ちゅっ、ちゅるっ、れろえろ、ちゅぱ……」

サラ sara\_p02\_082 「じゅるる、ずちゅー、ちゅっ……んはあ、キス、き  
もちいい……」

サラ sara\_p02\_083 「お兄ちゃん、やさしーね……。？ んちゅ……  
ちゅっ」

サラ sara\_p02\_084 「うん、そろそろ平気、かな。……おちんぽ、ゆーっ  
くり奥まで、いれたい？ うん、やさしく、ゆーっ  
くり……ね？」

サラ sara\_p02\_085 「んっ、あっ……。ああ、サラの、おまんこの中、お  
ちんぽで引き伸ばされてる……んくう、あああ……  
…」

sara\_p02\_086  
「す」おい……あつくって、かたあいのが、ずにゆ  
ゝつ、てえ、すこしずつ入ってきてる……ん  
はあっ、んんっ、はああんっ」

sara\_p02\_087  
「えへへ……すごいね……はあ、はあ……嬉しくて…  
…痛み、もう感じなくなつて、あはあんっ、きもち  
いー、かも」

sara\_p02\_088  
「ふあっつ、今、お、奥まで……んくう、届いちやつ  
た、はあ、はあ……あふう……」

sara\_p02\_089  
「このまま、先っちょを、おまんこの奥につけて、  
ちよっとずつ、ちゅっちゅって……」

sara\_p02\_090  
「んっ奥、こねられて、きもちいー……きもちいー  
よ？ おにいちゃあん」

sara\_p02\_091  
「ううん、抜かなくても、このままで、いいよ。ん  
ふっ、あはあっ、ああんっ」

sara\_p02\_092  
「お兄ちゃん、やさしくて、あったかくて、きもちよ  
くて、すき……」

sara\_p02\_093  
「もっと、動きたい？ うん、サラは、だいじよぶだ  
よ、きて……」

sara\_p02\_094  
「ふああ、おちんぽが、サラのおまんこから、ちゅぶ  
ちゅぶって、抜かれて、はあっ」

サラ

sara\_p02\_095  
「ね、お兄ちゃん、どう？ おちんぽ、いい？」

サラ

sara\_p02\_096  
「おまんこで、ちゃんと感じて、ああん、くれる？ ん、んんくう、はあ、あふう……」

サラ

sara\_p02\_097  
「サラも、ん、んん、だんだん気持ちよくなつて、きた、よ？ えへ……だから、このまま……ああんっ」

サラ

sara\_p02\_098  
「うくう！ きやうう……はあ、んんうん、おまんこの奥で、おちんぽ感じる……」

サラ

sara\_p02\_099  
「サラの、大事なところ、コツコツぶつかってる……」

サラ

sara\_p02\_100  
「いいよ、お兄ちゃん、気持ちいい……、もっと、もっとと乱暴にパンパンってしても、いいよ、ああ、ああああんっ」

サラ

sara\_p02\_101  
「そう、もっと、はぐう、はあん、うんっ、うん、すーい、いいよお……んああ、はふう」

サラ

sara\_p02\_102  
「はあ、ああ……お兄ちゃんの体重が、おへその裏で感じちゃう……ひうう、はひいい……」

サラ

sara\_p02\_103  
「もっとお、サラのおまんこ、ズコズコって、ほじってえ」

サラ 「あんっ、力強いお兄ちゃん、はうんっ、すき、あっ  
あっ、すきいっ、んあああっ」

サラ sara\_p02\_105  
「ああ、あああ……あんっ、いい、おちんぽ、ん  
はあっ、きもちいいよおっ、んっ、はひい、んん、  
ふうんっ」

サラ sara\_p02\_106  
「ね、あんっ、お布団、せーして汚したら駄目だよ…  
…っ」

サラ sara\_p02\_107  
「んっんっ、サラの、ちっちゃい中で、出してっ……  
あんっ」

サラ sara\_p02\_108  
「うん、いいよ……お兄ちゃんのせーしなら、サラ、  
どこでだって受け止めちゃう……」

サラ sara\_p02\_109  
「あっんんっ、あああんっ、はあっ、ふあああっ、  
んっ、んうう、ああんっ、ひあああっ」

サラ sara\_p02\_110  
「ふふ、今ね、サラ……いっーぱい気持ちよくなつて  
るの、だからあ」

サラ sara\_p02\_111  
「お兄ちゃんの出したてのアツアツせーし、おまんこ  
の奥で感じたいの……んうっ」

サラ sara\_p02\_112  
「ふああ、おまんこ、じわあって、きもちいーのが、  
おなかのほう、はあっ、きてるっ、んんっ」

サラ  
sara\_p02\_113  
「お兄ちゃんも、気持ちいい？ えへ……いいよ、中出し……」

サラ  
sara\_p02\_114  
「このまま、全部、サラの中に、びゅっびゅするままで……おまんこ、コスコスしてえ、はふうん」

サラ  
sara\_p02\_115  
「サラのおまんこに、あんっ、びゅーって中出しするまで、ふああん、おちんぽ出し入れして、はあああ、ずぽってえ」

サラ  
sara\_p02\_116  
「あ、ああ、やあ、お兄ちゃんのちんぽ、スゴイ……」

サラ  
sara\_p02\_117  
「おまんこのかべ、ゴリゴリして、……あっ、ん、ん、ひゃうううん……」

サラ  
sara\_p02\_118  
「うああ、はあ、はああん……おちんぽ、ビクビクしてる……ふふ、出そう？」

サラ  
sara\_p02\_119  
「いいよ、お兄ちゃん……、このまま……はあ、はあ……」

サラ  
sara\_p02\_120  
「あっ！？ きゃうう、根元がぶくーって……あっ、あああ、くるっ……」

サラ  
sara\_p02\_121  
「ああんっ、ふあっ、ふああっ、んあっ、おまんこが、欲しがって、あっ、ああっ」



サラ  
sara\_p02\_122  
「ひゃあんっ、おまんこ、きゅんきゅんしちゃう、おにいちちゃん、きもちいいの？ きもちいいんだよね？」

サラ  
sara\_p02\_123  
「んんっ、もっと、出すまでズポズポって、んはあ、そこすっごいつ、いいのおっ、んっ、あっあっ、あああんっ」

サラ  
sara\_p02\_124  
「出してえ、お兄ちゃん！ サラの中に、とくのうせーし、びゅって、びゅびゅーってしてえ！はあ、はあ……ああああああん♪」

射精

サラ  
sara\_p02\_125  
「はー……あはあああ……お腹の奥で、おちんぽが暴れてる、みたい……」

サラ  
sara\_p02\_126  
「はあ、ふう……ん、んん……ああ、はあああん……」

サラ  
sara\_p02\_127  
「サラ、イッてる……あっ、んん、ダメエ、初めてなのに……」

サラ  
sara\_p02\_128  
「初中出しなのに……こんなに、気持ちいいだなんて……ひうう、あはああ……」

サラ  
sara\_p02\_129  
「お兄ちゃんも、いっぱい感じてくれてる……」

サラ  
sara\_p02\_130  
「ふふ、その顔……ああ、やだ、見てるだけで、おまんこヒクヒクしちゃう……」

サラ

sara\_p02\_131  
「はー……はー……あはあ、まだ、出てる……」

サラ

sara\_p02\_132  
「ん、んあ、おぐが、せーしで、ふくらんでる……」

サラ

sara\_p02\_133  
「ほらあ、サラのおへその下、ちょっとポッコリしてる……」

サラ

sara\_p02\_134  
「これ、お兄ちゃんの精液だよ……はあ、ふう……ふふ、すごいねえ……」

サラ

sara\_p02\_135  
「ふー……少し、疲れちゃったあ……このまま、ちよつとだけゴロゴロしよつか……」

サラ

sara\_p02\_136  
「（一人ごと。小声で）誰かが帰ってきてても、これならバレない……かな？」

サラ

sara\_p02\_137  
「（小声で）ま、バレたらバレたで、サラは全然……ふふふ……」

サラ

sara\_p02\_138  
「え？ ううん、ただの独り言。お兄ちゃんにお休みの挨拶、なんて言おっか考えてただけ……」

サラ

sara\_p02\_139  
「うん♪ おやすみ、お兄ちゃん……晩ごはん食べたら、またエッチしようね」

サラ

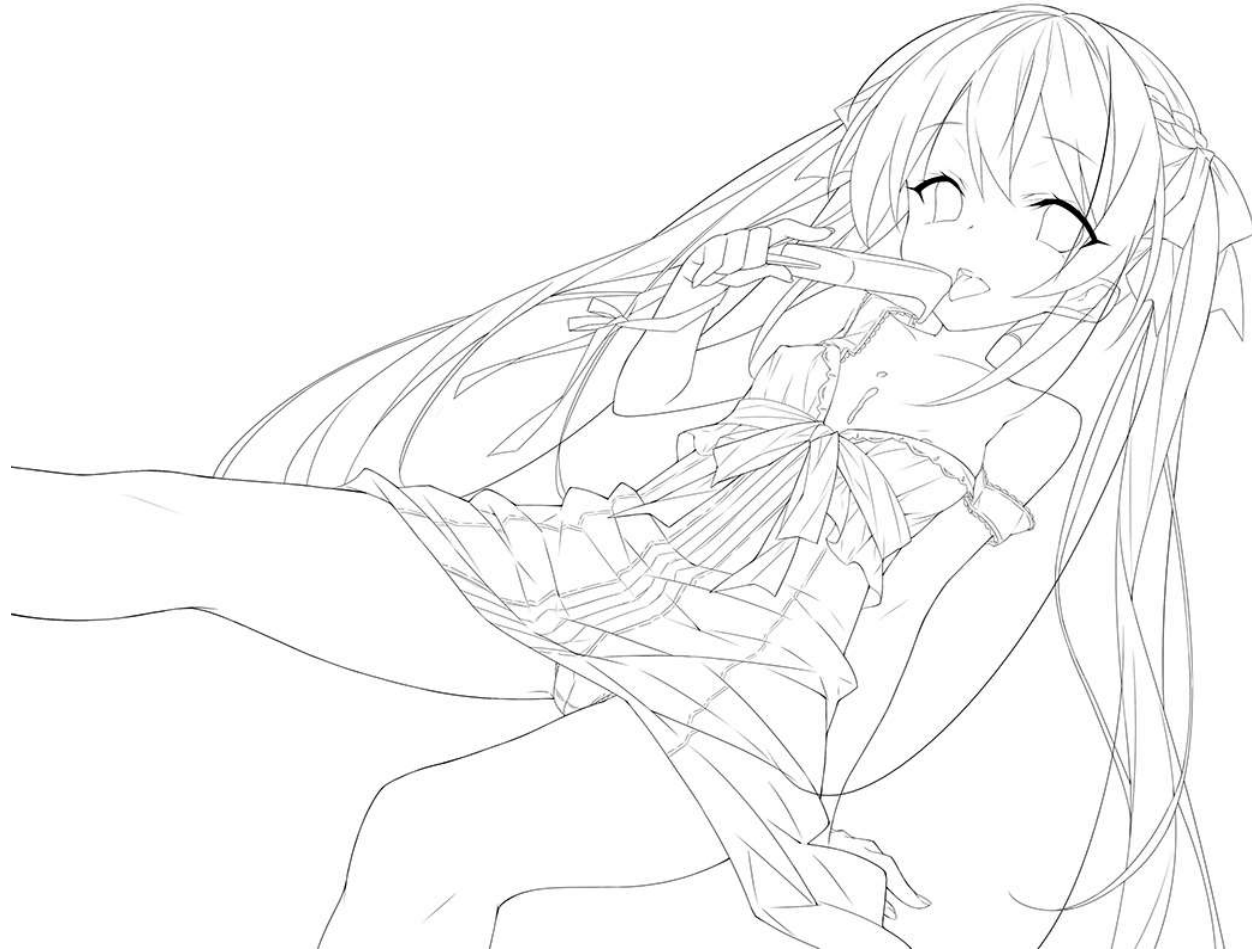
sara\_p02\_140  
「で、その後、もう一度お風呂入って……お風呂でエッチして……着替えて、テレビ見て、テレビみながらエッチして……」

サラ

sara\_p02\_141

「それからね？ ベッドの中でまたエッチして……………  
…ふわああ……………駄目え、サラ……………クタクタだよお…  
…ふわああああ……………」

p03 <



再会ご奉仕ックス  
収録台本

キャラクター：サラ

ファイル：p03



サラsara\_p03\_010  
「そのおもちゃで、サラのおまんこ、いたずらして…  
…?」

サラsara\_p03\_011  
「うふふ、おにいちちゃん、サラのおねだりすぐ聞いて  
くれるから、すきー♪」

サラsara\_p03\_012  
「あぁん、もう濡れてきちゃってる……。えっちなお  
しるがじゅんって垂れちゃう」

サラsara\_p03\_013  
「えへへ、毎日お兄ちゃんのおちんぼでかき回されて  
るから、サラ、すぐえっちになっちゃうの……」

サラsara\_p03\_014  
「ふぁ? お兄ちゃんにむけて、おしり突き出せばい  
いの?」

サラsara\_p03\_015  
「にう? えへへ、サラのおしり、かわいい?」

サラsara\_p03\_016  
「ひゃんっ、おしり、急にナデナデされたら、びっく  
りするよお……」

サラsara\_p03\_017  
「ぁんっ、そんなに優しく……。これだけで、ふぁ、  
おまんこからもっと、お汁でちゃう……」

サラsara\_p03\_018  
「ね、そろそろアレ、挿れてえ……」

サラsara\_p03\_019  
「そっとね、そーっと……あっ、あっ、ああああ…  
…」

サラ sara\_p03\_020  
「つ、冷た……おもちゃって、ヒンヤリしてるんだ  
ね、ちよつとビックリ……ふうっ、んんっ」

サラ sara\_p03\_021  
「あっ、んっ、入ってる……あぐう、んぐう、あっ、  
あああ……」

サラ sara\_p03\_022  
「や、駄目、ねじっちゃ駄目ええ……おまんこ、巻き  
取られちゃう……」

サラ sara\_p03\_023  
「あっ、あっ、あああ……はあ、はあ……入っちゃっ  
た……」

サラ sara\_p03\_024  
「ふふ、おまんこ、広がっちゃってる……えっちだ  
ね」

サラ sara\_p03\_025  
「うん、へーき……ふふふ、毎日おちんぽ挿れても  
らってるから……」

サラ sara\_p03\_026  
「はあ……ふう、んあ、ああんっ、これ、いーかも、  
ふああ、あっあっ、あくう」

サラ sara\_p03\_027  
「あ……、スイッチ、入れるの……？ えへへ、サ  
ラ、どーなっちゃうのかなあ？ ……どき、どき」

SE モーター音 ループ

サラ sara\_p03\_028  
「ひゃああうううっ！ ふあ、や、やだ、す」  
いいー」

サラ sara\_p03\_029  
「おくがゴリゴリして……うぐっ、あはあ！ はああん……気持ち、いい……」

サラ sara\_p03\_030  
「ぶぐうっ、バイブのさきっちょが、グーリグーリつて、ふぁ、ああんっ」

サラ sara\_p03\_031  
「サラのおまんこの、きもちいところ、ひうっ、こすってるの……」

サラ sara\_p03\_032  
「ああっ、あっ、あああん、はああ、ひうううっ、んっ、ああっ、んふうう、ふああああっ」

サラ sara\_p03\_033  
「……ねえ、お兄ちゃん……サラ、せつないよお……。おっぱいもチュツチュしてえ……」

サラ sara\_p03\_034  
「んうっ、乳首、おいしい？ ふあっ、舌でなぞるの、だめえ、ああん、かたくなって、きちょうからあ」

サラ sara\_p03\_035  
「あっ、ひやうっ、そんなに強く吸ったら、ミルク出ちゃうよお……はぁ、はぁ……ああああん……」

サラ sara\_p03\_036  
「はあん、おっぱい、ちゅーってされて、んんんっ、おまんこ、かき回されて、あああっ、ああんっ、すこい、すこいよお」

サラ sara\_p03\_037  
「ああああ、駄目え……気持ちいい……気持ちいいけど……」



|    |  |
|----|--|
| サラ | sara_p03_038<br>「でも、んっ、んん、やっぱり、お兄ちゃんの……ちんぽがいい……」                     |
| サラ | sara_p03_039<br>「お兄ちゃん、お兄ちゃんのおちんぽがいいよお……」                            |
| サラ | sara_p03_040<br>「あつくてヒクヒクしてる、たくましいおちんぽがいいの……」                        |
|    | SE モーター音停止   |
| サラ | sara_p03_041<br>「んはぁ、はぁ……気持ちよかった……。でも、イクんだったら、やっぱり……」                |
| サラ | sara_p03_042<br>「サラ、お兄ちゃんのなまちんぽがいい……な」                               |
| サラ | sara_p03_043<br>「あー♪ おちんぽ、ぴくんってした。嬉しいんだ、えへへー」                        |
| サラ | sara_p03_044<br>「じゃーあ……、よいしょ」  |
| サラ | sara_p03_045<br>「えへへ、お兄ちゃんの上に座っちゃった」                                 |
| サラ | sara_p03_046<br>「サラ、こうやって、お兄ちゃんと向かい合って、抱っこされるようにえっちするの、好きー」          |
| サラ | sara_p03_047<br>「それにー、えへへ、分かった？ サラのぐちよぐちよのおまんこに、お兄ちゃんのかたーいのが、あったてるの」 |

サラ sara\_p03\_048 「ねえ、お兄ちゃん……キスしよ……（キス）  
ちゅっ、ちゅーっ、ちゅる、ちゅっ」

サラ sara\_p03\_049 「んはあっ、えっちなキス、きもちい……。じゃー  
あ、次はー」

サラ sara\_p03\_050 「（耳打ち）お・ち・ん・ぽ、いれて……？」

サラ sara\_p03\_051 「ん……んん、はあ……あはああ、ズヌヌウて入って  
くる、この感じ……大好きい」

サラ sara\_p03\_052 「ふわああ……やっぱり、生ちんぽがいい……お兄  
ちゃんのちんぽ、最高だよお……ふふふ……」

サラ sara\_p03\_053 「えへへ、お兄ちゃんはどう？ サラの生まんこ、最  
高？」

サラ sara\_p03\_054 「んー？ ほんとなあ？ ああんっ、ほんとみたい  
だねっ」

サラ sara\_p03\_055 「このかたくって、ふあっ、ゴツゴツのっ、おちんぽ  
でっ、ああんっ、サラをもっと、犯してえ……」

サラ sara\_p03\_056 「ああっ、いいっ、お兄ちゃん、もっと、生ちんぽで  
生まんこ、じゅぽじゅぽかき混ぜてえっ、はあっ、  
あああんっ」

サラ sara\_p03\_057 「あ、ああ……気持ち、いい……ん、ふう、やっぱり、  
最高……もっと、気持ちよくしてえ……」

sara\_p03\_058  
「はあ、はあ……ふああっ？ やあ、そこ、ちがう穴、おしりだよお……んんっ、指だめえ……」

sara\_p03\_059  
「あっあっ、おまんこに入ってるっ、のに、ひうう、おしりのあな、なぞっちゃだめえ……」

sara\_p03\_060  
「ふえ？ほんとにだめなら、やめる？ やめちゃうの？」

sara\_p03\_061  
「むー、お兄ちゃん、意地悪だよ……。サラにそんな事言わせようとして、もー……」

sara\_p03\_062  
「（耳打ち）ほんととは、すっごく、いいよ……サラ、おしりマンコで感じるドスケベ変態っ子になっちゃった……」

sara\_p03\_063  
「はああっ、指、入ってきたあ……。んああ、おかしくなっちやいそう……」

sara\_p03\_064  
「んああああっ、浅いところ、ほじほじされて、おまんこは深いところズコズコきてて、はああん、いっ、いいよおっ」

sara\_p03\_065  
「ふあっ、なに、これ、アナルビーズ？ ふわあ、えっぐい形……」

sara\_p03\_066  
「これ、お尻にいれる、の……？ サラ、お尻をいたずらされながら、おまんこずんずんされちゃうの？」

サラ sara\_p03\_067  
「うん、いいよ……おまんこでおちんぽ感じながら、お尻いじられるの、大好きい……」

サラ sara\_p03\_068  
「ん……んんあ、はあ、お尻の穴、広がってる……あっ、あああ……はあ、入ってる」

サラ sara\_p03\_069  
「んん、はあ……あああ、い、いくつもいくつも、つながった玉が、サラのおしりマンコ、こじ開けて……」

サラ sara\_p03\_070  
「一個ずつ、ぽこっぽこって、入ってきてる……」

サラ sara\_p03\_071  
「ああん、おまんこと、お尻の穴の中で擦れあって……ぐっ、ふう……はあ、あああ……気持ち、いい……」

サラ sara\_p03\_072  
「んふう、はう……、んくっ、ふああ……、ビーズ、ぜんぶ、はいっちゃっ、た……？ おしり、もう、満員だよお」

サラ sara\_p03\_073  
「はあ、ふう……ふえええ、う、嘘……お尻の穴の、引っ張り出すの？ そんなの駄目え……」

サラ sara\_p03\_074  
「あ、ああ、ああああ……一つずつ、お尻の穴からポコポコ生まれて……うくう！ はあ……お、お尻で、イキ、そう……」

sara\_p03\_075  
「ぶぐうつ、あうう……や、だ、駄目、おちんぽも、  
出し入れ、しないでえ……あっ、あっ、あああ……」

sara\_p03\_076  
「ちんぽだけで、こんなに気持ちいいのに……  
はあ、ふう……んくう」

sara\_p03\_077  
「あああん、お尻まで気持ちよくなったら、サラ、変  
になっちゃうう……」

sara\_p03\_078  
「おまんことおしりと、ずっぽずっぽ、ずるずる、  
ずっぽずっぽ、ずるずる、ふああ、すごい、すごい  
よお……」

sara\_p03\_079  
「お兄ちゃんも、こうふんしてる？ きもちいい？  
えへへ、サラのからだ、きもちいい？ あんっ、  
もっと、もっと言ってえ」

sara\_p03\_080  
「ふええ？ なからし？ やっ、らめえ……今、おま  
んにお兄ちゃんの特濃せーしなんて注がれたら、  
はあ、はあ、サラ、もう……」

sara\_p03\_081  
「だめえ……ひい！ くう！ あっ、あっ、あ  
ああああん……？ イッ……グッ……うう、  
んっ、んヒイイイ……っ……っ……」

射精

sara\_p03\_082  
「は……は……あああん、イッ、てる……イク  
の、止まらない……」

サラ sara\_p03\_083  
「ふああ、駄目え、もう、出さないでええ……はあ、  
はあ……はへええ……」

サラ sara\_p03\_084  
「あははああ……お尻の穴と、おまんこ……一緒に気  
持ちよく、なっちゃたあ……」

サラ sara\_p03\_085  
「はー……はー……病みつきに、なっちゃいそう……  
…」

サラ sara\_p03\_086  
「ふあっ、精液、まだ出てる……んくっ、あつい」

サラ sara\_p03\_087  
「おまんこの中で、あついのがビュクビュク暴れてる  
……」

サラ sara\_p03\_088  
「はあ、ふう……ふふ、またイッちやいそう……」

以降は疲れてまどろむ感じ

サラ sara\_p03\_089  
「はふう、お兄ちゃん……すごかったよお……」

サラ sara\_p03\_090  
「もうサラ、お兄ちゃんのじゃなきや、ダメになっ  
ちゃった……。でも、また、向こうに帰っちゃうん  
だよね……」

サラ sara\_p03\_091  
「サラ、もう離れたくない……ずっと一緒にいたい  
よお……」

サラ sara\_p03\_092  
「ふえ？ もうむっくに帰らない？ ほんと？ ……  
ほんとに？」

サラ sara\_p03\_093  
「サラとずーっとずーっと一緒に居てくれる？ サラ  
のこと、ずーっと可愛がってくれる？」

サラ sara\_p03\_094  
「えへ、えへへえ……、嬉しい……。夢見たい……」

サラ sara\_p03\_095  
「お兄ちゃん、サラ、いまとーっても、しあわせえ…  
…ちゅっ（ほっぺにキス）」

サラ sara\_p03\_096  
「ねっ、じゃあもつとえっちしよ……？」

サラ sara\_p03\_097  
「サラの大事なところに白いの、いっぱい注ぎ込ん  
でえ……」

サラ sara\_p03\_098  
「おクチも、おしりの穴も……ぜーんぶ、お兄ちゃん  
のドロドロはくたくザーメンで、いっぱいにして…  
…っ」

サラ sara\_p03\_099  
「（耳打ち）お兄ちゃん……だーい好き、だよ。サラ  
のおまんこ、もうお兄ちゃんのだからね……？ う  
ふふふ……」

終了